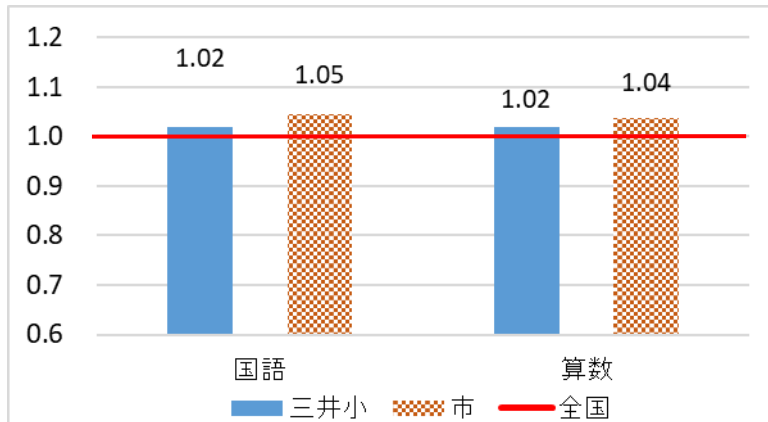


## 令和3年度 全国学力・学習状況調査について

第十中学校区 三井小学校

第6学年

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



○調査結果についての分析、今後の改善方策

### 【国語】

「漢字を文の中で正しく使う」や「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」の設問については全国平均を大きく上回っていたが、「資料を用いた目的を理解する」及び「目的や意図に応じ、資料を使って話す」についての設問には課題が見られた。今後は、授業の中で様々な資料や情報を読み取り、活用していく場面を多く取り入れ、課題の解決をめざす。

### 【算数】

学習指導要領の領域別の「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」で全国平均を上回った。「説明を解釈し、他の場合に適用して新たな説明を記述できる」などの設問について対応できていたことは、日常の学習の中で、ノートに理由を記述することに取り組んできた成果が表れていると考える。一方、「データの活用」の領域が全国平均をやや下回っていた。今後、「データを分類し、状況に応じて整理の仕方を工夫する」などの学習に取り組んでいく。

### 【質問紙調査】

「いじめはどんなことがあってもいけないこと」と考える子どもの割合が95.1%と人権意識の高さを感じられる。ただ、「自分には、よいところがあると思いますか」についての肯定的回答率が、68.1%で、自己肯定感が低いことが伺える。今後、子どもたちが主体的に学習する活動を推進し、自尊感情が醸成されるように取り組んでいく。

○学力向上の取組

### 【中学校区】

- ・ねやがわスタンダードをもとに、家庭教育・学習規律について共通理解を図る。
- ・小中一貫会議の各部会（国語部会、算数・数学部会、国際コミュニケーション・英語部会）で、学力テストについて、経年的に各校の取組の成果を検証するとともに、三校合同授業研究会の充実を図る。

### 【学校】

「三井小漢字検定」や、「読書ノート」の取組、担外の教職員含めた全員参加の放課後学習教室「学び舎」など、独自の取組を実施し、学校全体で協力して子どもたちの学力向上のために尽力している。